

第3回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン



環境サステナブル企業部門 特別賞

塩野義製薬株式会社

4つの ステークホルダーの 視点で情報開示



上席執行役員 コーポレート管掌
岸田 哲行氏

—貴社は、「汚染予防への貢献」、及び「企業規模の観点から限られたリソースを固有の特徴的な取組に戦略的に注力」の観点から特別賞を受賞されました。受賞理由となった取組みをご紹介いただくとともに、特別賞の受賞についてのコメントをお聞かせください。

SHIONOGIは「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」ことを経営理念に掲げています。半世紀以上に渡って感染症と向き合ってきた強みを活かし、マテリアリティの1つに『感染症の脅威からの解放』を特定し、人々を感染症の脅威から守るための製品・サービスの創出・提供に取り組んでいます。

近年、病原性微生物が抗菌薬に耐性を持ち効かなくなる薬剤耐性（AMR）が世界的な脅威となっており、何も対策を講じなければ2050年には全世界で1,000万人以上がAMRによって亡くなるとも言われています。弊社ではAMRに有効な製品としてセフィデロコルを開発し欧米を中心に上市していますが、単に製品の提供だけに留まらず、AMR発生の要因の一つと考えられる生産過程における影響も意識しています。弊社では抗菌薬製造過程の排水について抗菌薬の不活化を行った後に社内処理施設を経由して排出しています。2030年までにサプライチェーン全体で抗菌薬の環境排出管理体制の構築を計画しており、すべての関連サプライヤーにAMR監査を実施しSHIONOGIの取組みへの理解と協力を願っています。

特別賞の受賞は、こうした取組みを高くご評価いただいたものと考え、大変光栄に思っておりますし、自社の事業に深く関連する社会・環境課題により注力して環境への影響の低減に取り組む必要性を再認識しました。

—今年の貴社の環境/サステナビリティ情報開示で注目すべきポイントをお教えてください。

持続可能な調達体制の整備を重要な課題と特定し、グループ会社横断の連携体制のもとサプライチェーンにおける人権

や環境など諸課題への対応を推進しています。

人権の観点では医薬品製造に欠かせない原料を生産するインドの農家とダイアログを行い、労働状況の確認を行いました。得られた知見は取引先とも共有しサプライチェーン上の人権リスク低減に活用していきます。

環境面では上記のAMR対応体制の構築だけでなく、サプライチェーン全体で温室効果ガス削減に取り組むことも不可欠です。環境省の「令和3年度サプライチェーンの脱炭素化推進モデル事業」に参加し策定した、サプライヤーへのエンゲージメントプロセスを実行しています。購入金額上位のサプライヤーなどを対象に、CO₂削減への取り組み状況の調査や気候変動に対するSHIONOGIの方針に関する説明会などのエンゲージメントを実施しました。今後は、CO₂削減に特に重要な調達先を選定し、優先的に削減依頼・支援を実施していきます。また、TCFDについても今年3月に賛同を表明し、フレームワークを参考に年内の開示に向け気候変動の影響の評価を進めています。

—企業規模や業種特性に応じた特定の重要な環境課題等に対し独自性のある取組みを進めている/進めようとしている企業の皆様に、情報開示等についてアドバイスがあればお願いいたします。

私達SHIONOGIは、4つのStakeholders（社会、顧客、株主、従業員）に対してバランスよく貢献していく事が重要であり、いずれかに偏った経営をしていると長期的な発展はできないと考えています。企業は社会から生かされている存在であることを常に意識して、自社の強みを通して社会にどう貢献できるのか、環境など社会へのマイナス面は無いかなどを考え続けるようにしています。情報開示にあたっては、自社の強みを活かして独自の取組みとしてできることの特定が重要だと考えていますが、加えて一つひとつの取組みが4つのStakeholdersそれぞれに対してどういった貢献につながるのかを言及できるよう、常に意識しています。